

松末再生に向けての取組

～平成29年九州北部豪雨におけるコミュニティの現場から～

朝倉市 松末地域コミュニティ協議会【コミュニティセンター】

事務局長 日隈 繁夫

1. 松末地域の概要

朝倉市の東部に位置し、谷底平地に県営河川の乙石川、赤谷川、市営河川の小河内川が流れ、県道52号線が地域を縦断。250世帯、高齢化率39%（災害前）であり、自然豊かな日本古来の田舎の原風景が広がる地域である。大分自動車道杷木インターから車で10分ほど、福岡市内からも約1時間で来ることができる。しかし、子どもの減少により松末小学校は平成30年3月閉校となった。松末保育所も現在休所中で、公的施設は無い。

生活基盤の衰退や高齢化、後継者不在など、環境は大きく変化し集落の維持すら困難な状況になりつつある中、単発的ではあるが、あちらこちらから「松末をどうにかしよう」という声が上がっていた。

2. 松末地域活性化プロジェクト

平成24年度、総務省の「過疎集落等自立再生緊急対策事業」に3事業が採択された。事業ごとに地元ボランティア（支援者・協力者）を募集・登録し事業を展開してきた。

(1) 遊休・荒廃地活用事業・・・遊休・荒廃農地の有効活用手段として、ソバ栽培を中心にソバ打ち体験や農業体験を通して、都市住民との交流を行い、人の流れを創出し活性化を図る。

(農業体験・・・芋掘り、田植え、じゃが芋堀体験、スイートコーン対面販売)

(ソバ加工品・・・そば粉、ソバの実、ソバ乾麺、かりんとう、クッキー)



【松末地域コミュニティ協議会組織図】



(2) ふるさと見直し事業・・・地域の見直し、再発掘。見どころマップ作成、案内看板設置

(3) 買い物弱者支援事業・・・生活必需品のストック、買い物届

3. 平成29年7月九州北部豪雨

(1) 災害の状況

平成29年7月九州北部豪雨では、市内各地で多数の山腹崩壊が発生。土砂と流木が大量に流出し、民家を次々に飲み込んで地域のいたるところで被害が発生した。

朝倉市では、33名の尊い命が奪われ、未だ2名が行方不明。

(松末地域)

人的被害 19名、1名未確認

住宅被害 全壊92戸、大規模半壊20戸、半壊38戸、一部損壊35戸

※約74%の世帯が被害

現在地域内の居住者は約106世帯42%

・朝倉市の平年の7月の月間雨量 354.1mm
・当日の雨量 黒川地区 9時間(12~21時) 774mm
(気象庁観測史上最大記録(東京大島) 12時間 707mm)
・流出土砂・・・筑後川右岸流域：1,100万m ³ ・流木：21万m ³

(2) 災害からの復興に対する思い

- ・復旧ではどうにもならない ⇒ 改良復旧
- ・初めての権限移譲による工事 ⇒ 国土交通省 林野庁
- ・情報不足 積極的な情報提供
- ・所管の違いによる住民の戸惑い
- ・選択肢のない関係機関の提案
- ・方向性を示した行政からの提案なし

住民主権の
説明会、学習会の開催

※危険と思われる谷、沢、等のリスト作り ⇒ 関係機関合同での現場確認
⇒ 復興計画に反映

※集落単位での学習会(九大支援団の支援)

※復興かわら版の発行(県外ボランティア)

4. 地域再生に向けて

(1) 地域が抱える主要課題

- ①安心して暮らせる住まいとコミュニティの再生
- ②命を守る安全な地域づくり
- ③地域に活力をもたらす産業・経済の復興及び振興

(2) 課題解決に向けての取り組み

①住宅・宅地の確保、整備

- ・集落会議等で出された住宅用地の確保を市に要求

②松末小学校跡地活用

小学校の廃校決定後（平成27年11月）から「松末小学校跡地活用検討委員会」を設置し、検討を続けてきた。建物を維持するのみではなく、地域活性化の中心として守っていく。

そこで、「松末まるごと笑楽校」を現在構想中である。具体的には、松末小学校跡地を中心に、地域全体を笑楽校として位置付け、災害からの復興を図りながら交流拠点として小学校を利用する。

（笑楽校の機能の視点）

- ・コミュニティ機能・・・コミュニティ活動の場・運営事務所
- ・体験学習機能・・・農林産の体験、食の加工体験（万九里プラザ含む）
- ・学習、教育機能・・・災害の教育を後世に伝える災害遺構としての保存
自然豊かな環境を生かした防災教育・自然教育
- ・宿泊機能・・・子ども会、学校ゼミ合宿、グリーンツーリズムへの参加
地域農産物を使った飲食の提供
- ・交流、情報発信機能・・・コミュニティ開催催事への参加、農産物の販売
- ・避難所（場所）機能・・・地域住民の発災時の避難場所
- ・研究拠点機能・・・土砂・流木等の災害に対する行政・大学等による研究
防災力の向上及び発信

※学生による松末小学校付近の環境復興計画

松末の環境は美しく、生活は常に山、川と共にある。災害は起きたが、状況を受け入れた明るい松末の未来を描いている。若者の目線で未来図をスケッチした取り組みをきっかけに、地域が具体的に夢を描く手段・方法としたい。

5. まとめにかえて

- ・行政との復興に向けた協働の取組
- ・ハードも大切、しかし、ソフトはもっと大切
- ・日常の生き方が問われる — 情報収集、判断力、行動 — 感性を磨く
- ・公助は大切、しかし大災害では頼れない
- ・ハード面を過信してはならない、限界がある
- ・共助・近所の大切さ — ひとりの力には限界
- ・意識の変革と日常生活を通して

〔 準備に上限はない

空振りは良いこと

早めの避難・率先避難

助けられた命、助かった命、生かされている命を大切に

問合せ先

〒838-1504 朝倉市杷木星丸1170番地

松末地域コミュニティ協議会 日隈 繁夫

TEL : 0946-62-1012 FAX:0946-62-1012 E-mail: masue-com@city.asakura.lg.jp